

中央区平和展

～ 永遠の平和を願って～



中央区平和都市宣言

昭和六十三年三月十四日 議決第 十五号
昭和六十三年三月十五日 告示第二十六号

いまどいごとらどより

平和の尊さをいよさらう

さびかな幸せも

こよなき繁栄も

平和の光が消えたなら

すべてが失われる

私たちの手にあるこの輝きを

明日の世代に伝えよう

一九八八年三月十五日

この日 私たちは

永遠の平和を願う

中央区が平和都市で

あることを宣言する

空襲。家を焼かれ避難する子供たち（撮影 石川 光陽）

開催期間

平成31年2月26日🔥から
3月12日🔥までの開庁日

会場

中央区役所本庁舎1階ロビー
日本橋区民センター1階エントランスホール
月島区民センター1階コミュニティサロン

「中央区平和展」の開催にあたって

永遠の平和は人類繁栄の礎であり、すべての人々の共通の願いです。しかし今なお、世界各地で紛争やテロが絶えず、多くのかげがえのない命が奪われている痛ましい現実があります。国や人種、宗教の違いを乗り越えて協力し合い、一日も早くすべての人々が安心して暮らせる世界平和の実現に向けた取り組みが何よりも大切であります。

本区は昭和63年（1988年）3月15日の「中央区平和都市宣言」以来、この「平和展」をはじめ、「中央区立小・中学校巡回平和展」や戦災に関する記録・資料をいつでも誰でもご覧いただけるホームページ「平和祈念バーチャルミュージアム」、「平和の都市（まち）の楽しい集い」などの平和事業を積極的に展開してきました。戦後70年以上が経過し、先の大戦を知る世代が年々減少しております。あの忌まわしい戦争の惨禍を再び繰り返さないために、次の世代にしっかりと語り継ぐことは今を生きる私たちに課せられた大きな使命です。

まもなく「平成」という時代が終わろうとしています。報道機関による全国世論調査では、平成という時代に当てはまるイメージについて、「戦争がなく平和な時代」との回答が79%に上りました。この結果は、わが国が先の大戦後一貫して平和を希求し続けてきたからこそであります。本区は、次の時代も「戦争絶対反対」「核兵器廃絶」「テロ撲滅」の姿勢を貫き、「平和」を区政のあらゆる施策の根幹に据え、さまざまな機会を捉えて、恒久平和の実現に全力で邁進してまいります。

「中央区平和展」は、本区における空襲被害や学童疎開、戦中・戦後の生活など、当時の状況を物語る写真や資料を公開展示するとともに、戦災体験者の証言等を上映することにより、戦争という悲惨な歴史を風化させることなく広く伝えようとするものです。この展示を通じ、あらためて平和の尊さ・大切さを考え、見つめ直すきっかけとなることを切に願っております。

貴重な写真や資料をご提供いただきました多くの方々から御礼申し上げます。

平成31年2月

中央区長 矢田 美英

永遠の平和……。それは人類共通の願いです。

写真パネル等展示リスト

中央区役所本庁舎 1階ロビー

資料名	提供者	資料名	提供者
昭和15年頃の銀座	柴田和子	女性労働・給食用のパン製造に励む女子工員	毎日新聞社
初めての夜間爆撃を受けた日本橋三越付近		空襲の火災の消火作業をする人たち 銀座で	河合徳司
泰明国民学校にも直撃弾	撮影 石川光陽	戦禍が拡大し、疎開学寮で授業を行うようになった国民学校の学童疎開	毎日新聞社
泰明国民学校		出発する子どもたちと残る子どもたち	毎日新聞社
空襲で焼けた歌舞伎座		学童疎開・食事の前のお祈り	撮影 梅本忠男 (立命館大学収蔵資料)
1945年3月10日空襲後の東京中心部	(一財) 日本地図センター	国民学校男子児童の剣術訓練	河合徳司
数寄屋橋交差点 避難する親子		国民学校児童の給食	西山隆
空襲により屋根が焼け落ちた東京駅	撮影 石川光陽	地元の国民学校へ集団で通学する児童たち	京橋図書館所蔵
有楽町ガード脇の惨状		学寮で遊ぶ児童たちの足元にたくさんのかぼちゃ	毎日新聞社
警視庁屋上から見た銀座空襲	読売新聞社	大空襲で焼失した京橋周辺	毎日新聞社
B29 東京空襲	毎日新聞社	銀座服部時計店前の英語の道標	撮影 石川光陽
太平洋戦争 東京空襲 燃える銀座通りの焼夷弾		終戦から一年後の日本橋交差点付近	毎日新聞社
元旦早々焼け出された人々	撮影 石川光陽	焼け跡 銀座四丁目	撮影 石川光陽
空襲。家を焼かれ避難する子供たち		戦前の銀座四丁目交番付近	毎日新聞社
勤労働員で砲弾の信管造り	共同通信社	昭和13年・賑わう日本橋の全景	国立公文書館
消火訓練	撮影 石川光陽	重爆撃機の行動半径	東京大空襲・戦災資料センター
銀座の復興に向け地面を掘り返す人々	読売新聞社	日本本土初空襲へ向かう B25	
民家の屋根に設置された対空監視所	共同通信社	洩れた一灯敵機を招く	国立公文書館
空襲警報が発令されたときの街角	毎日新聞社	商店の灯火管制	
金属回収で忠犬ハチ公も供出		家庭防火担任者と服装 其の1	撮影 石川光陽
防毒面の製作	撮影 梅本忠男	家庭防火担任者と服装 其の2	
警視庁の指導による防毒マスク訓練	(立命館大学収蔵資料)	戦前の日本橋	
学童も手伝い家屋の疎開作業	毎日新聞社		

日本橋区民センター 1階エントランスホール

資料名	提供者	資料名	提供者
罹災者が行き交う晴海通り	撮影 石川光陽	太平洋戦争 焦土の東京で麦の大豊作	毎日新聞社
警視庁屋上から捉えた銀座空襲着弾の瞬間		少年産業戦士と呼ばれた少年工員	
昭和20年3月10日東京大空襲直後の旧日本橋区両国一帯	西山隆	戦時中、リヤカーで疎開する人々	撮影 梅本忠男 (立命館大学収蔵資料)
瓦礫と化した日本橋地区を走る市電	後藤種吉	戦時中・わら人形の仮想敵を攻撃する学童	毎日新聞社
東京大空襲直後の燃える中央区(昭和20年3月10日撮影)	(一財)	三角巾の指導	撮影 梅本忠男 (立命館大学収蔵資料)
東京大空襲前の中央区(昭和20年3月8日撮影)	日本地図センター	幼稚園児の退避訓練	毎日新聞社
路上に空いた被弾穴	東京大空襲・戦災資料センター	玉音放送の翌日、皇居前広場に集まる人々	撮影 石川光陽
B29の猛爆で燃える銀座を数寄屋橋から見る	後藤種吉	三原橋付近 一焼土の運搬	京橋図書館所蔵
空襲で灰燼に帰した馬喰町付近		終戦直後の露店 一銀座通り	
空襲・爆撃で燃える日本橋付近	毎日新聞社	戦後復興する銀座四丁目界隈	毎日新聞社
焼け跡 日本橋浜町・両国		戦災孤児救援募金・銀座で募金の女学生	
東京駅での待避訓練	撮影 石川光陽	お盆・佃島の戦争犠牲者の供養盆踊り	

月島区民センター 1階コミュニティサロン

資料名	提供者	資料名	提供者
戦後の銀座上空を飛ぶ米軍の飛行機隊	読売新聞社	国民服にモンペ姿、戦時下の通勤 東京駅前	毎日新聞社
空襲を受けた銀座四丁目交差点付近	撮影 石川光陽	女性労働・飛行機の増産に励む女子挺身隊	京橋図書館所蔵
地下鉄銀座駅出入口の埋没者を救助する警視庁警備隊	共同通信社	家庭工場で働く婦人	毎日新聞社
焼夷弾で焼き尽くされた東京大空襲(昭和20年3月10日)の惨状		学童疎開	
復旧に手間取る銀座の街	撮影 石川光陽	給食のパンに感謝して食事する児童	毎日新聞社
数寄屋橋の爆撃現場		国民学校・木銃をかついで勇しく行進	
昭和19年12月中央区部米軍 B29 偵察写真(大空襲前)	菊地正浩	お寺の本堂で生活する学童疎開の児童たち	(一財)日本地図センター (一部写真のみ)
昭和20年4月中央区部米軍 B29 偵察写真		旧京橋区・旧日本橋区の空襲被害	毎日新聞社
焼け残った銀座三越	撮影 石川光陽	終戦・バケツを持って炭の配給を受ける主婦	
空襲警報発令の想定で実施の灯火管制の訓練	毎日新聞社	日本橋 終戦直後の両岸は瓦礫の山	撮影 石川光陽
昭和通りに作った農園で耕す人々		戦前の数寄屋橋付近	

(提供者：敬称略・順不同)

物品資料リスト

中央区役所本庁舎 1階ロビーに展示しています。

資料名	提供者	資料名	提供者	資料名	提供者
伝単 右腕と左腕 戦は終りに近い	中央区所蔵	雑誌「国民の音楽」	中央区所蔵	リュックサック	中央区所蔵
案内便覧「市民の交通」		雑誌「生産青年」		軍帽	郷土天文館所蔵
少年戦車兵(絵葉書)		電灯かさ(灯火管制用電灯遮光具)		金属製戦闘機柄シガレットケース	
内務省「決戦非常措置要綱」		防毒マスク		千人針	
国民学校教員講習写真帖		刻みタバコ入れ			
手引書「慰問手紙文」		M69 油脂焼夷弾			

○展示内容は変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

(提供者：敬称略・順不同)

DVD 上映

各会場で戦災体験者の証言や平和アニメなどのDVDを上映します。

資料の収集

区では、平和関係資料の収集および保存を行っています。戦時下を物語る写真や物品がありましたら、提供のご協力をお願いします。

問合せ先：区民部地域振興課地域事業係 TEL：3546-5339